

4 歳児クラス <5月 富嶽三十六景「凱風快晴」 (赤富士) >



やさしいK-ART

テーマ《赤富士ワーク》

にほん ちっとも し る 山 ふじし かつしかほくさい
日本で最も知られた浮世絵師、葛飾北斎の
ふじく三十六景 凱風快晴 通称「赤富士」
を模写します。

<テーマを決める>

最近、外国からの観光客がとっても増えています。
その外国人観光客の人たちに、日本で最も人気があるのが「富士山」です。
富士山は、日本でも昔から人気の山です。
この赤富士は、葛飾北斎によって約200年も前に描かれた作品です。

<問いを考える>

「葛飾北斎ってどんな絵を描いた人でしょうか？」
「富士山は何色をしている？」
「この雲は何雲でしょうか？」 「季節はいつ頃だろう？」
「富士山の上の白い部分は何かな？」
「なぜ赤富士が赤いの？」 「この絵の富士山の時間は何時くらいかな？」
「浮世絵ってなに？」

葛飾北斎が赤富士を描いた背景などお話をして、作品の奥にある状況や思い
などを感じながら富士山を描きましょう。

1. フレーム
2. プリント台紙
3. 赤富士パーツ
4. 糊
5. キットパス

(赤、しろ、オリーブまたは緑、
黒、ベージュ使っても OK)



<環境をデザインする>

「絵の要素をパーツ分けした材料に色付けをしていく」

三原色で学んだお米で作られたキットパスを使って、
葛飾北斎が描いた「赤富士」の模写をしていきます。
絵はフォルムが上手く描けないと途端に他の子たちと
比べて上手・下手という比較をしてしまいます。

きちんとそのフォルムが出せるようにパーツ化をして
いるので、子どもたちの想像を超える作品になるよう
な材料作りをしています。

4歳児クラス <5月 富嶽三十六景「凱風快晴」(赤富士)>実施報告



5/27 年中《葛飾北斎：赤富士》

見本を見てすぐに富士山と理解していました。

「この富士山はなんで赤いんだろう？」
実際に富士山が赤く見られる時があること、富士の麓にある森の木々を黒い点で表現できるというお話もしっかり聞いてくれました。

先月行った「側面塗り」で、緑(オリーブ色)、ベージュ、赤を使って表現。

赤色はてっぺんまでは塗らないこともしっかり守って塗れました。

白のキットパスで雪を描く際もしっかりと見本を見て描けて、麓の木の黒い点を打つ時に、手に持ってちょっと観察して更に黒い点を増やす様子も見られました。

富士山のパーツを背景に貼り、自分の作品を額に入れると「わぁ！」と目を輝かせ「やったー！」と満足そうな様子でした。

